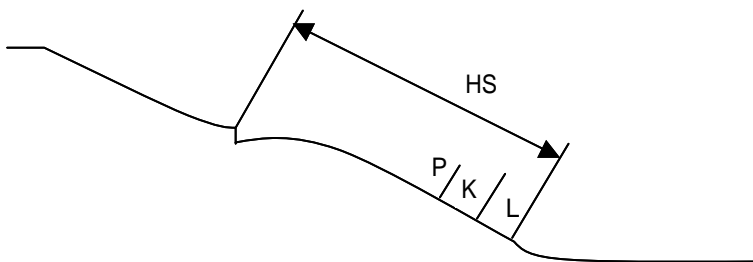


豆 知 識 !

・ヒルサイズ(HS)について

2005年からジャンプ台の大きさを表す表記として用いられるようになりました。ヒルサイズ(HS)はテークオフの先端からL点(着地区域の終点)までの測定距離で決定されています。選手がこの距離を越える飛行をすると、危険のため競技の続行について審議(ジューリー会議)されます。K点と同じジャンプ台であってもジャンプ台の構造によりヒルサイズは異なります。

大倉山 K = 120m HS 134	宮の森 K = 90m HS 100
白馬 K = 120m HS 131	白馬 K = 90m HS 98



・ジャンプ台のサイズ別分類

ジャンプ台の分類はテークオフの先端からL点(着地区域の終点)HSまでの測定距離で決定されています。

スモールヒル	20m ~ 49m
ミディアムヒル	50m ~ 84m
ノーマルヒル	85m ~ 109m
ラージヒル	110m 以上
フライングヒル	185m 以上

・飛距離点はこうやって算出します。

飛距離点はそのジャンプ台のK点を基準に換算します。K点まで飛ぶと60点が与えられ、K点を超すと1mにつき決められた点数が加算され、K点まで到達しないと1mにつき決められた点数が減点されます。1mあたりの点数はジャンプ台のK点により定められています。

K点の距離	1mあたりの点数	K点の距離	1mあたりの点数
35 ~ 39m	3.6点	60 ~ 74m	2.4点
40 ~ 44m	3.2点	75 ~ 99m	2.0点
45 ~ 59m	2.8点	100m以上	1.2点

<例>

大倉山ジャンプ競技場(K点120m)

宮の森ジャンプ競技場(K点90m)

A選手の飛距離 125m
60点 + (5m × 1.2点) = 66点

C選手の飛距離 95m
60点 + (5m × 2.0点) = 70点

B選手の飛距離 115m
60点 - (5m × 1.2点) = 54点

D選手の飛距離 85m
60点 - (5m × 2.0点) = 50点

・飛型点是这样採点します。

飛型点は5人の飛型審判員によって採点されます。

審判員はテークオフ終了(カンテから飛びだしてから)からアウトランの転倒ラインを通過するまでの選手の継続した動作の外見を正確性、完成度、安定性及び全体の印象の観点から採点します。

審判員は一人の選手に対し、20点満点から減点法で採点します。

5人の審判員が採点した点数は、最高点と最低点を除き、3人の審判員の点数を合計して飛型点となります。

<例>

	A 審判	B 審判	C 審判	D 審判	E 審判	
A選手	19.0点	18.5点	18.5点	18.0点	17.5点	18.5点 + 18.5点 + 18.0点 = 55.0点

	A 審判	B 審判	C 審判	D 審判	E 審判	
B選手	17.0点	17.5点	16.5点	17.0点	17.5点	17.0点 + 17.0点 + 17.5点 = 51.5点

・グンダーセンについて

前半ジャンプの得点をタイムに換算し、後半クロスカントリーをジャンプの1位からタイム差順にスタートしてゴール到着順がそのまま順位となる画期的な方式を考案したグンダー・グンダーセン氏の名前から「グンダーセン」となりました。グンダーセン氏は、ノルウェーの元コンバインド選手で1954年、1958年の世界選手権でメダルを獲得しています。その後、FISのコンバインド委員長などを務められ、2005年6月に亡くなりました。

・マススタートについて

マス(Mass)は集団という意味で、一斉に集団でスタートをすることからマススタートになりました。マススタートは、前半クロスカントリー、後半ジャンプで行います。

・スプリントについて

スプリントは、ジャンプが1本、クロスカントリーが7.5kmとグンダーセンの半分の内容で行います。近年、ワールドカップではスプリント種目に更にバリエーションを加えよりエキサイティングな競技として観客の皆さんに楽しんでもらえるよう工夫をしています。